

幼児期子育ての教科書

子育てが楽しくなる考え方、子どもが伸びるしつけの仕方、問題行動改善法、手遊びや絵本の効果的な取り入れ方、一生付き合える最高のママ友作り方…などを解説！



0歳から6歳までの子どもがいるママ向け

幼稚園教諭時代の7年間で約2000組の親子をサポートしてわかった子育てのヒントを公開

幼児期の子育てアドバイザー

かがりいさ

【推奨環境】

このレポート上に書かれているURLはクリックできます。できない場合は最新のAdobeReader をダウンロードしてください。(無料)

<http://get.adobe.com/jp/reader/>

【著作権について】

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。

下記の点にご注意戴きご利用下さい。

このレポートの著作権は株式会社Adventure Lifeに属します。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

このレポートの開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。

このレポートは秘匿性が高いものであるため、著作権者の許可なく、この商材の全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

著作権等違反の行為を行った時、その他不法行為に該当する行為を行った時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行う等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行う場合があります。

このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有します。

このレポートの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等がありましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

このレポートを利用することにより生じたいかなる結果につきましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

目次

2章. 年齢別の子どもの特徴

1. 1歳

2. 2歳

3. 3歳

4. 4歳

5. 5歳

2. 年齢別の子どもの特徴

1. 1歳

●言語面

赤ちゃんの時は「あーあー」「わーわー」という喃語でしたが、一歳になると、「ママ」「ぶーぶー」「まんま」といった一語文（1つの単語）を話せるようになります。

ただ、まだ使える言葉の数は少なく、
例えば「まんま」という言葉で、「お腹がすいた」「のどがかわいた」「お茶が飲みたい」など・・・

1つの単語で様々な内容を表現します。

言葉が増えてくると、「コエ？」と聞いてきたり、

答えを求めているというよりも、
相手になってもらうために聞いてくるが多くなったり、
良いかダメかということを知る仕草を見せたり
することも増えてきます。

1歳終わりころになると、二語発話や三語発話も

話せるようになったりします。



●行動面・運動面・生活面

要求や拒否を声や動作、指差しで表現するようになります。

お昼寝も少なくなって、午後1回という幼児も増えてきます。

ただ、その反面夜泣きをするようになる場合もあります。

指先の力も強くなり、小さな玩具や積み木などを

しっかりと握ることもできるようになります。

おもちゃを叩きつけたり、わざとおもちゃを落としたりなど…

何度でも同じことを繰り返したりします。

日常行動の模倣をし始めたり、自分と同じ動作を

周りの大人にさせたりすることも出てきます。

喜んだり怒ったりの感情を、今までに比べ

よりの確に表現するようになります。

また、愛されたい・認められたいという気持ちが強くなり、

褒められるととても喜びます。

同時に**嫉妬心も強くなり、今までに比べ依存的になって、**

お母さんが自分の前から姿を消すと、
大声で泣き叫んだりするようになります。

2. 2歳

●言語面

2歳になると、「ブーブー アカイ」「タイヤ ナイ」などの
二語文（2つの単語）になります。

次第に助詞も使い始めるようになりますが、

「ママニ ヤッテ」といったような助詞の使い間違いや、

「エベレーター（=エレベーター）」「テビリ（=テレビ）」

などのように、単語の間違いも見られますが、

いろいろな場面で、いろいろな言葉を積極的に使おうとします。



また、2歳終わりころになると、花を摘んだ
トラックのことを“花トラック”と言ったり、
歌の歌詞をわざと反対にして歌ったりと、

ことばの上で遊べるようになってたりもします。

●行動面・運動面・生活面

乳歯も生えそろって、スプーンやフォーク、箸などを使って、
自分で殆ど何でも食べようとしています。

オムツがだいたい取れるのも2歳過ぎが多いです。

衣服の着脱や靴の脱ぎ履きなどもできるようになって、かなりいろ

いろいろなことができるようになります。

「ジブンデ」とか「〇〇クンノ」という言葉も出てきて、

“自分”という存在が少しずつはっきりしてくる時期です。

また、“自分”という意識が出てくると、

周りの友達が褒められると自分も褒められるまで

不服そうな表情をしたり、様々なところで自分を主張して、

受け入れられないと態度で反抗する様子も見られたりします。

また、2歳頃から同じ年齢の子どもたちにも

関心が出てくるようになります。



同じ年齢の子どもの近くに行きたがる割に、

お互いに独占欲が強いため、玩具の取り合いになって
終わってしまうこともよくあります。

一緒にいることを喜んででもまだまだうまく遊べない時期です。

また、跳んだり三輪車に乗ったりなど、
かなり運動面でも活発に動き始めるようになって、
外遊びも多くなります。

また、**ものの考え方が自分中心で主観的**ですし、
ボールやぬいぐるみなどの外界の事物や自然現象も
自分と同じように生き生きしたものと捉えています。

3. 3歳

●言語面

大人の真似をしたり、言葉の規則にも気が付き始め、
自分で新しい言葉を作り出したりして、言葉を習得して
豊かにしていきます。

また、「バカ」「アホ」といったような友達の本似をして、
悪い言葉を時々使うこともあります。

●行動面・運動面・生活面

“自分”という意識がよりはっきりしてきて、
自分を主張するようになって、「こうしよう」「ああしよう」と、
つもりを持って何でも自分でやろうとし始めます。

今までは何でも受け身で依存的な行動をとっていた子どもは、
従順でなくなり、「イヤ」というようになってたり、
気に入らないことがあると、物を投げたり、

泣き叫んで癩癩を起こしたりすることもあります。



これは自分という意識（自我意識）の表れで、
子どもの成長にはとても大切なことです。

まだまだ甘えてくることも多く、

親を安全基地にして行動しています。

自分でできることも増え、何でも自分でやってみたい反面、
まだまだ甘えたい気持ちはいろいろな場面で表れます。

友達と遊ぶことの楽しさがわかってくる時期ですが、

まだまだ**たくさんの友達と一緒に遊ぶことは難しい**です。

この時期の遊びは、ごっこ遊びが大部分を占め、
長く遊びを楽しめるようになります。

印象深かった体験や興味のあることを、

ごっこ遊びの中で再現することが多いです。

玩具の取り合いや喧嘩などもよくします。

また、空想がどんどん広がって、空想と現実との
区別がつかなくなり、「ママと〇〇に行った！」と
ないようなことを言ったりもしますが、
これは嘘として捉える必要はありません。

階段を両足を交互に使って昇り降りができるようになったり、
三輪車をペダルを踏んで自由に乗り回すことができる
ようになったりもします。



物の数え方にも、個、冊などさまざまなものがあると

気づき始めるようになりますが、まだどれを使えば

よいのかというのはわからず、使い分けをすることは難しいです。

また、「ママと○○する！」「パパは嫌だ」というように、

お父さんやお母さんがよりはっきりした

一人一人の存在として捉えられていきます。

4. 4歳

●言語面

言いたいことがいっぱい上手くしゃべれない
こともありますが、日常生活の中で自分の意志を
言葉でほぼ正確に伝えられるようになります。

先生の口調を真似たり

「センセイガ ○○ハ ダメッテ イッテタ」というように、
「センセイガ」いう言葉が増えたりするようになり、

子どもの心の中で先生の存在が大きくなります。

●行動面・運動面・生活面

3歳の頃にも増して、一人ひとりの友達と
深く付き合い始めるようになったことがわかります。

その反面、玩具の取り合いや、自分を通そうとして、
言い争いが起こったり、時には取っ組み合いの

けんかも始まったりします。

この時期のけんかというのは、いつまでも尾を引くのではなく、

ちょっとしたきっかけがあれば、ケロッとして

また仲良く遊び始めることが殆どです。



4歳頃になると、現実の世界と空想の世界を少し区別しながら、

その上で、空想の世界を楽しむようになります。

4歳になると、ブランコを立ってこいだり、

片足跳びやスキップなどの少し難しいことも

できるようになります。

あとは、先生や大人のお手伝いをしたがることも増えますが、
役割を決められるよりも、お母さんと一緒に
行うということが楽しいのです。

もうすぐ“5歳・年長さん”という意識や期待がが強くなり、

年長さんの運動会でやっていたことを真似たり、
嫌いなものでも頑張っって食べようとすることもあります。

5. 5歳

●言語面

内緒話をするときには声の量を抑えたり、

その場に応じた話し方が身についてくるようになります。

また、この時期になると、今まで何でも口に出していたのが、

かえって口に出すのをためらってしまい、

以前ほどしゃべらなくなる子もいます。

これは、言葉が相手と話をする手段だけではなく、

思考の道具として内面化し始めているからです。

何かを失敗すると、「ヨウチエン イッテナイカラ」

というような、理由にならないようないいわけを

言ったりもします。



●行動面・運動面・生活面

簡単なおつかいや短時間の留守番などができるようになって、

何でもできるという気持ちが強くなり、自信もついてきます。

ひとりでどこへでも行ってしまっただけで迷子になったりもしますし、お母さんが病気になると一人前に看病しようとしたりもします。

おばあちゃんはお母さんのお母さんということや、おばさんのお母さんは誰かという、人と人との関係や、遠くに住んでいるおばあちゃんの家との時間と自分の家の時間が違うと思っているというように、
時間の概念もまだあまり良く理解できていないところもあります。

人の世界や物の世界をいろいろな側面からとらえ始めるようになります。

仲間関係も以前にも増して活発に展開され、
仲間と世界を共有できるようになって、
友達と遊んでいるときは生き生きとして楽しそうなのに、帰ってくるとつまらなさそうにしているという場面も見られます。

体つきもしっかりしてきて、自転車にも乗れるようになります。

体を使っての遊びが好まれるので、大型遊具で遊んだり、

サッカーやドッチボールなどで遊んだりします。



その中では、自分たちに合ったルールを考え出したり、

話し合ったりすることもできるようになります。

また、想像力がとめどなく広がっていく時期で

ごっこ遊びもますます盛んにおこなわれます。

友達との仲間関係を活発に展開したり、自分よりも

小さい子どもをかばうような姿も見られるようになります。